

11/14は 高津市民館へ！ 介護いきいきフェア

特別講演は芸人レギュラーの「知っておきたい介護の話～自らヘルパーの資格を取得したレギュラーが楽しく語る介護体験～」です。
他にも、介護や健康についての相談窓口、健康チェック、福祉用具試乗、認知症サポーター養成講座などを同時開催します。

- 日 時: 11月14日(木) 10時30分～16時
※レギュラーによる特別講演は13時30分から
- 会 場: 高津市民館(ノクティ2)11階・12階
入場無料/入退場自由

地域で一緒に！
人生楽しく！！



お問合せ 高齢社会福祉総合センター ☎044-976-9001

暮らしサポ養成講座

“かわさき暮らしサポーター(暮らしサポ)”は、高齢者のご自宅を訪問し、日常生活上の家事(掃除・洗濯・調理等)のお手伝いをするお仕事です。

- 日 時: 11月18日(月) 10時～16時45分
- 会 場: 川崎市生活文化会館「てくのかわさき」
- 定 員: 20名
- 受講料: 無料
- 申し込み: 事前申し込みが必要。詳細は下記へお電話ください。

申込み・お問合せ 介護支援課 ☎044-739-8712

10/27開催 オレンジリボンたすきリレー

～ひとりじゃないよ ひとりにしないよ～

子どもたちの明るい未来と虐待防止への願いを込めて、児童福祉関係者がリレーをしながら繋ぐ「オレンジのたすき」。市内約25kmを走り抜け、横浜・グランモール公園を目指します。
沿道でオレンジ色ののぼりやリボンを見かけたら、大きなご声援をお願いします！



お問合せ 施設団体事業推進課 ☎044-739-8717

福祉のお仕事 就職・転職フェア

求む！福祉の人材。
市内の福祉施設、事業所40法人が集まる就職相談会です。
予約不要、履歴書不要、服装自由。お気軽にお越しください。

- 日 時: 12月14日(土) 13時30分～16時
- 会 場: 川崎市総合福祉センター(エポックなかはら)7階



お問合せ 福祉人材バンク ☎044-739-8726

福祉情報ミニ講座

お部屋と心の整理術～自分のこと、親のこと～

遺品整理のプロとしてTVでも活躍中！
整理コーディネーター石見良教さんのおはなしです。

- 日 時: 12月9日(月) 13時30分～15時30分
- 会 場: 高津市民館(ノクティ2)12階大ホール
- 講 師: 石見良教氏
(あんしんネット事業部部長 整理コーディネーター)
- 定 員: 400名(当日先着順)
- 受講料: 無料



お問合せ 高齢社会福祉総合センター ☎044-976-9001

障害者週間キャンペーン

毎年12月3日～9日は障害者週間。
「障害」についての理解を助け、共に生きる福祉のまちづくり推進のため、各地で様々な取組みがおこなわれます。

12月7日(土)にはJR川崎駅・武蔵溝ノ口駅、小田急線新百合ヶ丘駅前にて啓発グッズを配付します。



お問合せ 施設団体事業推進課 ☎044-739-8717

協賛会員募集中

本会の地域福祉活動の推進に対し、会費を通じてご協力いただく法人・団体による資金参加型の会員・協賛会員を募集しております。

協賛会員(順不同)

- セレス川崎農業協同組合 ●株式会社川崎フロンターレ ●いづみ文具株式会社 ●川崎信用金庫
- 株式会社ホテル精養軒 ●野村證券株式会社 武蔵小杉支店 ●ジェクト株式会社 ●株式会社セレモニア
- デュプロ株式会社 横浜営業所 ●東横システム株式会社 ●株式会社ジャパウイン
- 株式会社エコロジカルプレゼンツ ●株式会社アイダックデザイン ●理想科学工業株式会社 理想川崎支店

お問合せ 庶務課 ☎044-739-8710

編集・発行

社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会

住 所: 川崎市中原区上小田中6-22-5 TEL: 044-739-8711 FAX: 044-739-8737
E-mail: info@cs-w-kawasaki.or.jp HP: http://www.csw-kawasaki.or.jp

広報紙「川崎の社会福祉」に掲載する広告を募集しています。詳細はお問い合わせ下さい。

発行: 年4回(4・7・10・1月1日)
年間購読を希望される方は、84円切手4枚をお送り下さい。

川崎の社会福祉

川崎市
社会福祉協議会

2019.10
October

秋

No.587



10月1日から

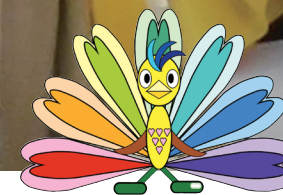
「赤い羽根共同募金運動」が始まります！

共同募金って何に使われてるの？

募金の7割は、市内の高齢者・障害者を支える事業や、配食・会食サービス、子育て支援等のボランティア活動に役立てられています。残りの3割は、児童養護施設の遊具や障害者施設の福祉車両の整備など、県内の福祉施設への支援をはじめ、国内大規模災害時の災害ボランティア活動に使われます。
今年も、皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

2019年10月号の記事

- 【特集】はぐくもう 福祉のこころ
～ささえあい・思いやる気持ち～ P2～P5
- 平成30年度事業報告・決算 P6
- おすすめ福祉の本 P7



川崎の社会福祉
イメージキャラクター
「ななまるくん」

特集 はぐくもう 福祉のこころ ～ささえあい・思いやる気持ち～

皆さんは“福祉”という言葉から何を連想しますか？

高齢者、障害を持った方、健康……。こんなイメージを持つ人が多いのではないでしょうか。

福祉の「福」は心のしあわせ、「祉」は仕合わせ（人と人との出会い、めぐり合わせ）を意味します。

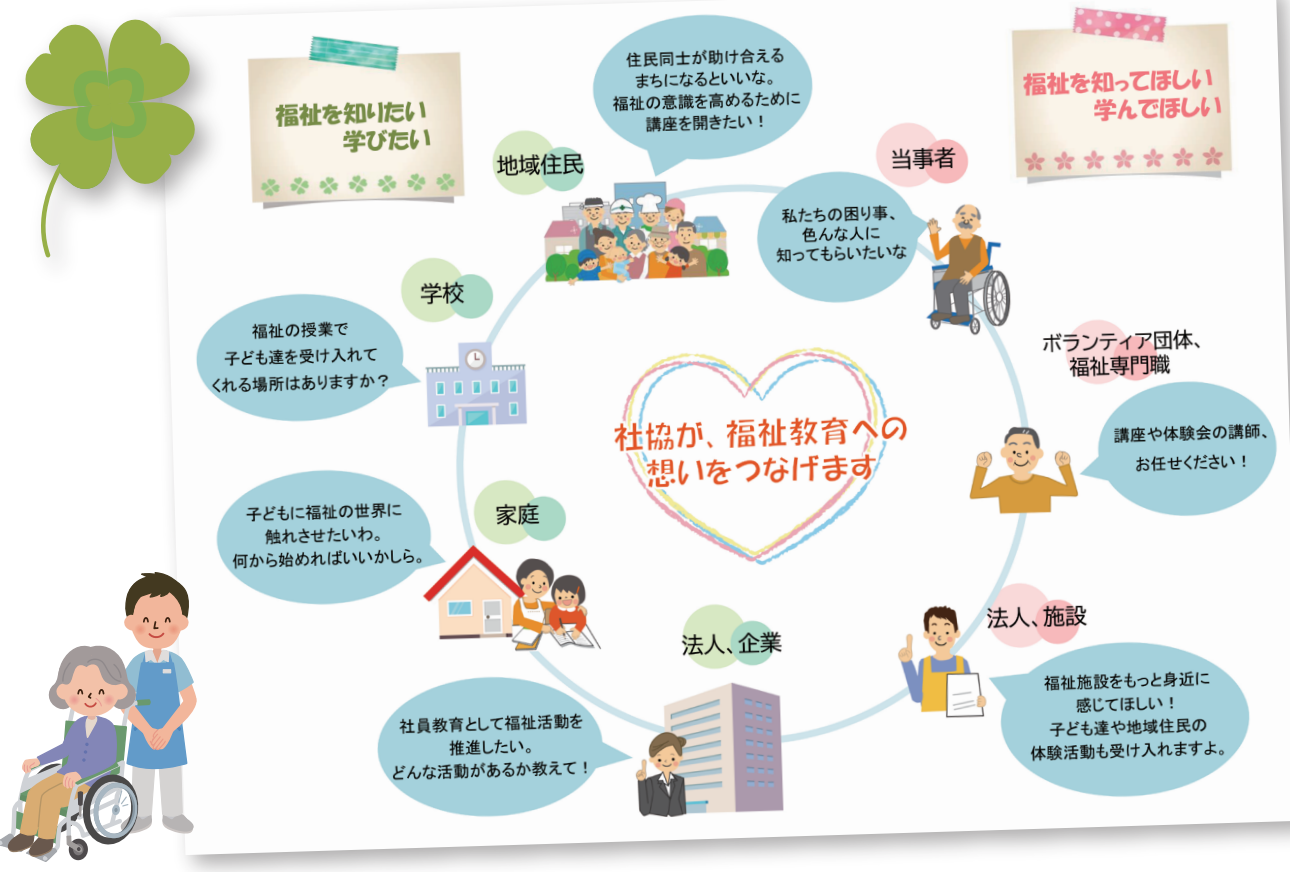
福祉とは、誰もがしあわせに暮らしていくために、それぞれが力を合わせること。

その福祉を実現するためには「自分も地域に暮らす1人なんだ」と実感し、自分でできることは何かを考え、行動するための力をはぐくむ必要があります。

急激な社会情勢の変化に伴い、孤独死やひきこもりなど、これまで無かった様々な問題を抱える現代社会。誰もが、孤立したり排除されることのない地域共生社会が目指される今、思いやりの心の種を育てる「福祉のまなび（福祉教育）」が注目されています。

社協は福祉教育を推進しています

福祉を「知りたい」「学びたい」気持ちと、福祉を「身近に感じてほしい」「知ってもらいたい」気持ち。私たち社協がそれぞれの想いをつなげて、様々な視点から皆さんの学び場づくりのお手伝いをします。お気軽にご相談ください。



あの人に会いたい！ 橋 福祉教育とは「しあわせに生きていくための学習」。多様な社会で暮らす子ども達に伝えたいこと。

現在、数多くの学校で福祉に関する授業が実践されています。学校にとって、福祉を教材にした授業展開の魅力とは何でしょうか。市内小中高校で「総合的な学習の時間（以下、総合の時間）」のカリキュラム作りを支援する、川崎市教育委員会・石井芳宏指導主事にお話を伺いました。



川崎市教育委員会
総合教育センター
指導主事 石井 芳宏 先生

一学校で福祉教育を実践する目的。

日本の若い世代は、世界の中でも自己肯定感が低いと言われています。私達教師は、勉強を教えることはもちろんですが、まずは自分自身がしあわせになることを今の子ども達に伝えたいと願っています。それを学ぶ学習の1つが「総合の時間」ですね。この時間では、環境や国際交流など様々な学習をしますが、福祉も大きなテーマです。

福祉教育を通して地域や周囲の人々について知ること、社会には多様な人間が暮らしていて、自分もその中の1人であるということを実感してほしいですね。そしてお互いを尊重し認め合うことができれば、必然的に子ども達自身も、わたしはありのままここに居ていいのだと自分自身を認めることに繋がると考えています。福祉教育とは「しあわせに生きていくための学習」であり、すべての教育の原点であると私は考えています。



市社協が開催する、市内教職員に向けた福祉教育研修会。グループワークで作成した指導計画案に、石井先生から講評をいただきます。

一福祉教育の魅力は、仲間と協働して答えを探すこと。

福祉教育の特徴は、「正解は1つではない」ことだとも言えます。1つの問題に対して様々な答えがある中、子ども達は試行錯誤し、周囲と協働しながら最適解を探していくのが福祉教育。これは、大人が仕事や生活をする上で実際に行なっていることです。教室を1歩出れば一筋縄ではいかない社会が広がっています。5年先・10年先には子ども達はそこで生きていくことになります。

一想像力と共感力。実際に子ども達の意識の変化を感じた場面。

障害者福祉について学習したクラスに、怪我をしている児童がいたんです。授業後、クラスメイト達はその児童の動作がゆっくりなことや出来ない動きがあることに気が付き、彼のペースに合わせ、寄り添う姿が見られました。どのような場面であっても、目の前の人々が何に困っているのかを想像し共感するという意識の芽生えを感じた瞬間ですね。

一地域へ出る。人と出会う。日常を知る。

カリキュラムを作る作業は正直大変です。けれど実際に授業が始まり、地域へ出て人に会い、話し、感じることで、子ども達の目は生き生きと輝き始めるんですよ。まさに教師冥利に尽きる瞬間ですね。また、ご協力いただく施設や地域の皆さんには、普段の姿、いつも通りの日常を見せてくださいとお願いしています。福祉とは決して特別なことではなく、大人も子どももみんなが日々の暮らしを大切に営んでいくこと。ですから、普段のありのままの様子を学ばせていただきたいと思います。

次ページは、社協がお手伝いできる「福祉のまなび」を大紹介！！

社協におまかせ！皆さんの福祉の学びをお手伝い

授業に福祉教育を取り入れたい、家庭でも福祉の世界に触れる学習をしたい。そんなときはお気軽に市社協、またはお近くの区社協へご相談ください。社協の強みは何といっても、関係機関と地域の皆さんを繋げられること。様々な人たちの力をお借りして、福祉教育を推進します。

チャレンジボランティア

市内ボランティア推進機関（10機関）との共催による、小学生～大学生を対象とした夏休みのボランティア体験学習プログラムです。福祉施設でのお手伝いから地域の環境保全活動まで、多彩なプログラムを企画しています。毎年抽選となる大人気企画も！

宮前区から活動レポート☆

福祉の目でまちを点検！福祉マップづくり

車いすユーザーや視覚障害を持つ地域の方々と一緒に街歩き。介護福祉士、ガイドヘルパーといった福祉専門職の他、スーパーや鉄道会社にもご協力をいただき、バリアフリーの実体験をしました。「肉や野菜の商品棚は鏡が付いていて車いすからでも見やすいね」「ここは段差があって怖かった」街歩き後は、地図に気付いたことを書き入れて福祉マップを作ります。

小学生の声

学校の福祉教育授業を受けて、町の福祉に興味を持ったので参加しました。夏休みの自由研究に自分でも福祉マップをまとめてみたいな。

保護者の声

普段接する機会のない当事者の方と沢山お話ができ、とても貴重な経験をさせてもらえました。学校より少人数で学べるのもいいですね。

“高齢者と関わる”ガイドブックの発行

福祉に関する授業を組みたいけれど、近隣の高齢者施設は生徒を受け入れてくれるのかな…。そんな先生のお悩みの手助けとなるため発行したガイドブックです。各施設の受入可否や学習内容の例などを掲載しています。学校での授業以外に、企業・団体においてスタッフのボランティア活動推進やインターンシップを計画する際にもご活用いただけます。

川崎区から活動レポート☆

中学生職業体験

ガイドブックにも掲載されている介護老人福祉施設「大師の里」に、大師中学校・川崎中学校の2年生6名が職業体験に訪れました。利用者さんと一緒に体操をしたり、レクリエーションをお手伝い。

中学生の声

・利用者の皆さんは元気で明るく話しかけてくれた。話題が合うと、自分自身も楽しかったです。
・人と関わる仕事をしてみたい。高齢者と関わる機会が普段の生活の中であまりないので、この施設での体験を選びました。

施設長の声

地域で暮らす子ども達が福祉について興味・関心を持ち、健やかな心の育成を支援する手助けになりたいという思いで受け入れを実施しています。子ども達が来ると、普段はあまり表情が変わらないご利用者様も笑顔になり、発言されることもあるので、我々も大きな驚きと喜びを感じますね。また、子どもに限らず、地域の方に施設を見ていただくのと同時に、施設の中にもご利用者様が地域と繋がれる環境を作るようにしています。

福祉用具の貸出・講師の紹介や調整

民生委員・児童委員、福祉専門職、障害当事者の方…。企画趣旨とご予算に合わせた講師の紹介をおこないます。また、車いす、高齢者・妊婦疑似体験セットなど、各種福祉用具の貸出も可能。授業や講座でご利用ください。

中原区から活動レポート☆

アイマスクと車いすを使ってみよう

総合の時間を使って福祉の学習をしたいと玉川中学校の先生より相談を受け、講師として介護福祉士会をご紹介。区社協からの福祉用具貸出しも合わせ、視覚障害と車いす体験を実施することになりました。

中学生の声

・アイマスクを付けるといつも通っている道がとても長く感じました。ガイドをする時は段差や障害物の声掛けのタイミングが難しく緊張しました。
・小学校では高齢者疑似体験を経験しました。色々な人の困り事を知ることができるので、こういった授業がもっとあるといいと思います。

担任の先生の声

今年は総合の時間のテーマを「福祉」にしました。今日の体験授業の他に、調べ学習や話し合いを重ね、班ごとにまとめて発表する予定です。生徒たちが社会福祉に目を向ける第1歩になればと考えています。

講座、研修等の実施

福祉の学びの場づくりを支援するため、教員や地域住民を対象とした様々な講座や研修を実施しています。

市社協から活動レポート☆

学校教諭に向けた福祉教育研修

市内小中学校の教員を対象した福祉教育授業の研修。大学教授による講義に加え、教員や社協職員からの事例発表や指導計画作成のワークショップなど、実践的な内容となっています。

参加した先生の声

・講師のお話を聞いて福祉についての自分自身のとらえ方に変化がありました。自分なりにかみくだし、子ども達へ伝え、一緒に考えていきます。
・福祉教育への考えを深めるきっかけになる時間でした。イメージもあいまいなままでの受講でしたが、計画すべきことが見えてきたので大変勉強になりました。

麻生区から活動レポート☆

福祉教育に関しての懇談会

麻生区では、区内の教員・福祉施設・当事者団体・ボランティアグループによる懇談会を開催。福祉教育の意義について理解を深めるとともに、より具体的な連携や学習の方法について活発な意見交換を行っています。

参加者の声

・様々な立場の方の話が聞けて有意義な時間でした。
・学校の取組を発信すること、地域の活動を発信することの両方が大切。より一層の地域交流を進めていきたいと思っています。

お問合せ

ボランティア活動振興センター ☎739-8718

福祉に関する情報を知りたいときは…

ふくみみ 川崎

検索



下記4項目を重点事業と位置付け、事業を実施いたしましたので報告します。

①組織経営計画の推進

- (1)財政構造の健全化
- (2)組織の統合・再編・整備
本会と区社会福祉協議会との法人合併への取組
- (3)地域福祉推進活動の見える化とわかる化



広報紙やホームページを通して、市民の皆様へ本会の活動をお伝えしています。

③区社会福祉協議会との連携

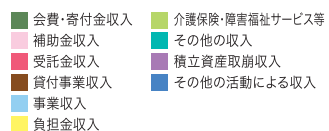
- (1)本会と区社会福祉協議会のグループによる指定管理の取組
- (2)区社協との連携・協議



市内48ヶ所の老人いこいの家及び7区の老人福祉センターの指定管理申請において、市社協・区社協がグループで取組んだ結果、平成31年4月からの指定管理者として指定を受けました。地域住民の交流の場として活用されています。

予算(収入)

会費・寄付金収入	6,630,153
補助金収入	2,280,065,279
受託金収入	514,802,187
貸付事業収入	8,126,300
事業収入	531,482,893
負担金収入	445,936,089
介護保険・障害福祉サービス等	856,815,941
その他の収入	5,453,333
積立資産取崩収入	215,739,590
その他の活動による収入	75,152,576
収入合計	4,940,204,341



②第4期地域福祉活動推進計画の推進

- (1)社協・地域包括ケアシステム推進会議の開催
- (2)第4期地域福祉活動推進計画の推進



地域ケア会議では、活動事例発表や情報共有・意見交換を行いました。



平成29年度に策定した、第4期地域福祉活動計画の着実な推進に向けて委員会を設置しました。

④災害に関する取組

- (1)平成30年度7月西日本豪雨への職員派遣
- (2)防災訓練



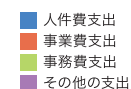
西日本豪雨で被災した、広島県内の災害ボランティアセンター運営・支援のため、関東圏内社協の幹事社協として派遣職員調整を担当。本会からも職員を現地に派遣しました。

第39回九都県市合同防災訓練を実施。川崎区社協と協働で「災害ボランティアセンター設置運営訓練」を行いました。



予算(支出)

人件費支出	2,004,608,799
事業費支出	2,685,728,191
事務費支出	81,395,534
その他の支出	151,756,485
支出合計	4,923,489,009



生活福祉資金貸付制度のご案内

社会福祉協議会では、低所得世帯、障害者世帯、高齢者世帯などへ資金の貸付と必要な相談支援を行うことにより、その世帯の生活の安定と経済的自立を図ることを目的に、生活福祉資金貸付事業を実施しています。資金は目的別に、「福祉資金」「教育支援資金」「不動産担保型生活資金」「総合支援資金」の4種類があります。なお、貸付には条件があり、審査を経て決定されます。

～お問い合わせはお住まいの区社会福祉協議会へ～

*川崎区社会福祉協議会	TEL:246-5500
*幸区社会福祉協議会	TEL:556-5500
*中原区社会福祉協議会	TEL:722-5500
*高津区社会福祉協議会	TEL:812-5500
*宮前区社会福祉協議会	TEL:856-5500
*多摩区社会福祉協議会	TEL:935-5500
*麻生区社会福祉協議会	TEL:952-5500

おすすめ♪ 福祉の本

あふれでたのはやさしさだった 奈良少年刑務所 絵本と詩の教室

●著者 寮 美千子 ●発行 西日本出版社 (2018年発行)

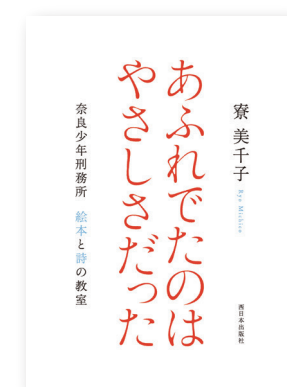
奈良少年刑務所で「社会性涵養プログラム」の一環として行われた、作家寮美千子による「絵本と詩の教室」。そこで起こった数々の奇跡を描いた、渾身のノンフィクションです。

なぜ、少年達は罪を犯してしまったのか…。想像を絶するような貧困や、親からの激しい虐待。犯罪に手を染めるにいたったそのはじまりは、命をつなぐための「緊急避難的犯罪」であることも多く、加害者である前に彼ら自身が被害者であったとも言えます。

彼らが刑務所を出所して社会に戻った時、より生きやすいように内面を豊かに育みたいという目的で行われたのが「絵本と詩の教室」。そこで彼らは絵本を読み、演じます。詩を作り、声を掛け合います。たったそれだけのことで、凶悪な犯罪を犯し、世間とコミュニケーションを取れなかった少年達が、身を守るためにつけていた「心の鎧」を脱ぎ始める様子が描かれています。

生まれて初めて自分を受け止めてもらったことで、自分の素直な気持ちを表現できるようになり、その思いを純粋でまっすぐな「詩」に表しています。母親についての「詩」も多く、その壮絶な生育歴を思うと胸が痛みますが、これからの彼らの未来を応援したくなる、そんな1冊。

少年更生に関わる方をはじめ、多くの方に読んでいただきたい本です。



著者プロフィール

1986年毎日童話新人賞、2005年泉鏡花文学賞を受賞。

2007年より奈良少年刑務所で、夫の松永洋介氏とともに「社会性涵養プログラム」講師として詩の教室を担当する。

その時の少年たちの詩は『空が青いから白をえらんだのです 奈良少年刑務所詩集』(新潮社)、『世界はもっと美しくなる 奈良少年刑務所詩集』(ロクリン社)として出版されている。

地域情報バンクで貸出しています



お問合せ

Tel. 044-739-8720

✉ jyoho@csww-kawasaki.or.jp

詳しい資金収支計算書及び事業報告はホームページにてご覧いただけます。▶

